20 周年記念発行に向けて

浦　絵美（9 代目　現委員長）

2012 年 8 月 23 日、私は、娘との永遠の別れを経験しました。
乗り越えなくてはいけない現実ですが、心身とも、とても厳しい日々でした。そんな中、私の心を救って下さったのが、家族、友人、そして女性委員会のお姉さま方です。
「人生いろいろ」、少しずつ回復してきた頃、女性委員長就任のお話しを頂きました。子育てのために仕事をセーブし始めていた時期でもあり、これも何かの導きと思い、委員長を引き受ける決意を致しました。
2013 年以降の日々は、想像していたものとは違い、「本当なら、子育てにあくせくしていたのに」と娘がいないことを悲しく思うこともありましたが､同年代の頑張っている仲間、女性委員会の先輩方からは、建築のことだけではなく、女性としての生き方についても多くを教わり、仕事･社会奉仕に対する思いはパワーアップして私のもとに戻ってきました。
同じ道を歩む同年代、諸先輩の方々（最近は、後輩も…）と「つながる」場は、女性委員会のメリットでもあります。このメリットを生かし、女性目線「WES：Woman’s eye society」にて広げ、伝えていくことが、就任期のテーマと感じました。
社会情勢の変化と共に､建築業界においても女性建築士の活躍の場は広がりつつあります。それを象徴するかのように、女性委員会も、設計・施工・研究など様々な職域で活躍する幅広い世代にて構成され、女子会（時には OG 会？）のような雰囲気のもと、和気あいあいと活動ができています。このメンバーなら、女性委員会設立 20 周年の記念事業はできるとの直感から、記念イベント開催と記念誌発行をめざし、ここまで進むことができました。仕事・家庭との両立の中での作業はとても大変だったと思います。明るく元気なメンバーに感謝です。ありがとうございます。
そして、「つどう・つくる・つながる・ひろがる」をテーマに再スタートしました私たちの活動を広報できる機会、女性委員会の歴史を記録に残す機会となる「女性委員会のあゆみ つどう・つくる・つながる・ひろがる」発行に伴いご協力・ご尽力を頂きましたみなさまに感謝しております。

2013 年 11 月 11 日　TVK「ありがとッ！」内「ファンケル・ヨコハマなでしこ」コーナーで女性委員会の活動が紹介されました

2014 年 2 月 23 日
20 周年記念イベント時に相模原支部から頂いた女性委員会 20 歳のバースデーケーキです。とっても心温まるサプライズに感激しました！

2014 年 6 月 28 日のコラボセミナーでは、講師に宮城県建築士会女性部会の方をお招きしました。このつながりから、
宮城県建築士会女性部会より神奈川県建築士会女性委員会にやってきた「おのくん」
　「おのくん」とは…以下､おのくん　BORN　IN 奥松島　のホームページに掲載されていましたコメントです。
宮城県東松島市「小野駅前応急仮設住宅」の人々の、住処であった東松島の復興を願って生まれた靴下を使って作ったキャラクターです。
「めんどくしぇ」とぼやきつつ、一人でも多くの人に東松島に来てほしいという思いが込められています。

目次

はじめに

01　02　目次、記念誌発行にむけて
03　04　女性委員会の歴史、女性委員会の活動
05　06　神奈川県女性建築士の割合、神奈川県から宮城県に移り住んで
07　08　女性委員会のあゆみ 1
09　10　女性委員会のあゆみ 2
11　12　女性委員会のあゆみ 3
13　14　アルバム 1

建築との関わり

15　16　女性が輝くということに対して・・・、日々思う事
17　18　建築という仕事、建築と子供たち
19　20　建築と音楽、建築・都市の風景を読み解く
21　22　女性委員会で実現したいこと、建築家としての貢献
23　24　子どもの生活環境部会、介護者研修受講体験
25　26　アルバム 2

委員会の活動

27　28　女性委員会との出会い、福祉部会への流れ
29　30　祝女性委員会記念誌、「はじめて」がある活動交流会
31　32　コラボセミナー、全国女性建築士連絡協議会
33　34　アルバム 3

歴代委員長の言葉

35　36　委員会の立ち上げ、広報活動
37　38　福祉部会活動、子どもの部会
39　40　関ブロ大会、木造塾
41　42　実践住まい塾、震災
43　44　編集後記、アルバム 4

広告

はじめに

女性委員会の紹介

女性委員会の歴史

大川　友理枝　（担当理事）

女性会員の活動は青年委員会の中で数人の女性が青年委員と一緒に活動していましたが、平成元年に青年委員会女性分科会として高齢化社会問題をテーマに女性で集まって勉強会を始めました。全国的にも女性委員会（部会）の立ち上げの機運が高まり平成 3 年には全国女性建築士連絡協議会が発足しました。関東甲信越建築士会ブロック会女性建築士協議会も設立に向けて意見交換があり、そんな中、平成 4 年に神奈川士会は関東 10 都県の内８番目に女性委員会を発足しました。

女性委員会の愛称を「WES」woman’s eye society と当時活動していた委員の発案の中から決めました。女性建築士の視点からその時・社会の問題を身近なものとしてとらえ取り組んできました。当時はまだまだ先の問題と考えられていた高齢化は現在超高齢社会となり、子どもの環境問題も少子化等、子どもを取り巻く環境も変化してきました。神奈川士会の女性委員会はそれらの問題を全国の女性委員会に先駆けて取り組んでいる士会として全建女で発表して注目を集めました。

福祉部会・子ども部会・環境部会は現在は技術支援委員会に移行して、その活躍が期待されています。女性委員会の一年の活動の締めくくりとして開催してきた「女性建築士との集い」は「活動交流会」として神奈川士会全体の行事の位置づけになりました。「WES ニュース」は活動の記録と広報を目的に創刊から２２年間５８号まで続きました。これからは「SALON」の中でその役割を変えて情報発信をして行きます。

関ブロ青年建築士協議会神奈川大会開催を青年委員会・女性委員会で合同開催した年を機会に女性委員会は様変わりしました。

新たな出発になった女性委員会は姉歯問題の時、「在来木造３階建ての構造計算の講座」をシリーズで開催すると、熱心な参加者が多く集まりました。後日参加者のお一人から声をかけられ「その後仕事の幅が広がり耐震の仕事ができるようになりました。」と言われ有意義であった事を確信しました。東日本大震災後には防災委員会とコラボセミナー「防災・減災について考える」を開催するようになり、士会主催になった交流会でも実行委員として活動しています。そして支部とのつながりが広がってきています。

２０数年前の女性会員数は８０名足らずでしたが、女性委員会発足時は１３０名程度、現在は３６７名になりました。一時は女性委員会が連合会の方針でなくなる危機もありましたが、その存在は大きく、着実にその役割を委員長を中心に女性委員会のメンバーによって果たされてきています。そしてこれからも女性会員の活動の場が広がると思われます。

女性委員会の活動　　ーつどう・つくる・つながる・ひろがるー

浦　絵美（委員長）

平成 25 年 4 月、9 代目の委員長に就任した当初は、同年代 3 名＝チームラビットでのスタートでした。このチームラビットは、就任直前の「仮設住宅コンペ」に参加したメンバーでもあります。コンペ作業を通し、私たちは「コミュニティの形成」の重要性を感じ、25 年度は、このコミュニティづくりをテーマにしようと決めました。

歴史ある女性委員会なのだから、諸先輩とのつながりを大事にしたいと思い、まず OG の皆様にお声掛けをし、再スタートに大きな助けを頂きました。

その成果は、「委員会規程」の作成として現れました。女性委員会設立当初の規定を読みながら、女性委員会の歴史を学ぶことができ、先輩方への尊敬、委員会存続への重責は増しました。

その後、アンケートの実施や、皆が紹介しあうことにより、メンバーは増えてきました。このメンバーならば、東日本大震災により自粛しておりました 20 周年記念イベントが行えると確信し、25 年度後半は、実現に向け活動を始めました。

女性委員会らしく手作り・アットホームな感じが良いとの思いから、自然と出てきたキーワードが、「つどう・つくる・つながる」でした。

この「つどう・つくる・つながる」を大切に、どんどん企画・活動し、神奈川県内や建築業界だけでなく広範囲にて「つながり」を目指していきたいと、20 周年記念イベント後に感じ、そのまま、26 年度は「つどう・つくる・つながる・ひろがる」が女性委員会のモットーとなり、活動を進めました。

このモットー通り、女性委員会の活動は、様々なところに広がりました。26 年度に実施した防災委員会とのコラボセミナー「防災･減災について考えよう ~HUG から学ぶ ~」は、参加された千葉県建築士会女性委員会の方々により、千葉県でもこのセミナーが開催されたり、神奈川県内の一般の方々から「自分の自治会でこのセミナーを実施して欲しい」との依頼を受けました。また、この活動を 27 年 2 月 28 日に開催された全国女性建築士連絡協議会の A 分科会「震災①防災への取組み」にてコメンテーターとして発表させて頂く機会を得ることが出来ました。

この A 分科会準備中に、メンバーの結婚、妊娠、親の介護など女性委員会らしい出来事がありました。そんなことから、27 年度以降、女性委員会は、「つどう･つくる･つながる･ひろがる　そして、支えあう」をモットーに、みんなができるときにできる活動をし、楽しみながら支えていく委員会にしていこうと思います。

今後の活動もぜひ見守っていただきたく、そして貴重なご意見を頂きたく宜しくお願い致します。

□主な女性委員会の活動

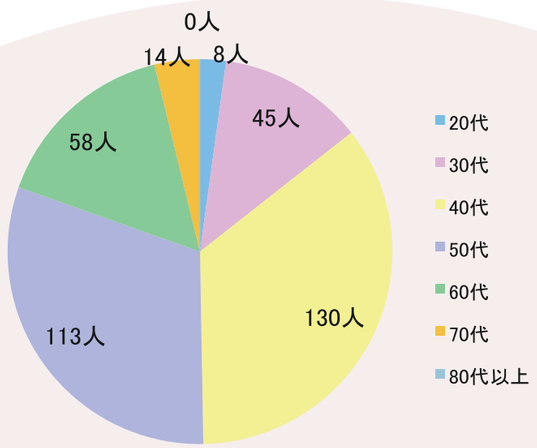
- 月一度の委員会
- WES news の発行
- セミナー開催
- イベント開催
- 勉強会
- 全国女性建築士連絡協議会などへの参加　等

神奈川県女性建築士の割合

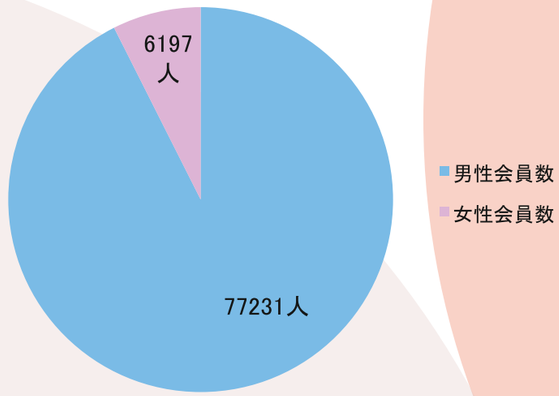
私たちは客観的にどのような枠のなかにいるのでしょうか

（平成２６年度）

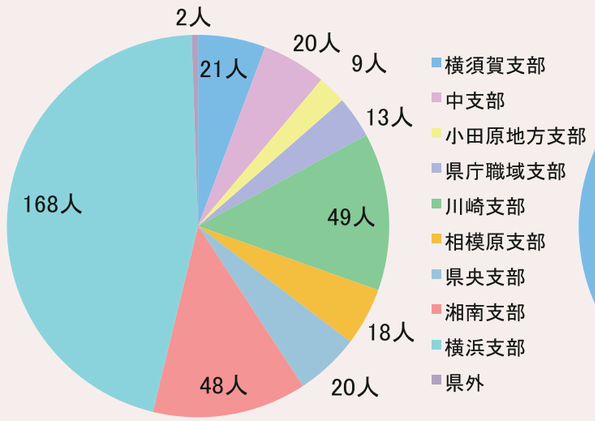
神奈川県女性会員数の年代割合



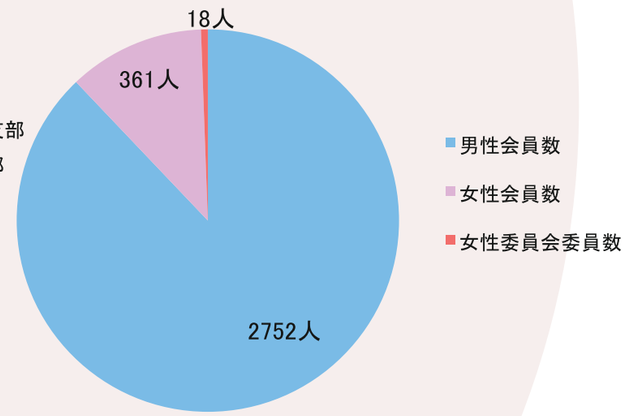
全国総会員数の男女割合



神奈川県女性会員数の支部割合



神奈川県総会員数の男女割合および女性委員会委員数割合



神奈川県から宮城県に移り住んで・・・

高橋　ユリ

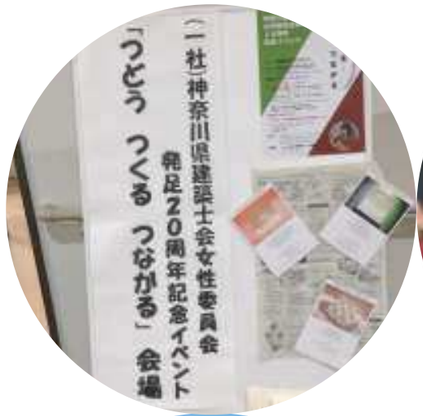
宮城県に移り住んでから、環境に慣れるまで暫く建築の世界から離れていました。
今年の１月に入って正式に建築設計事務所を開きマイペースな活動をしています。
そんな中、また大地震が近い将来来ると言われています。その備えの動きもあり、また東日本大震災の教訓で復興と次の大震災の備えを宮城県全体が進めている事を様子から伺えます。
今住んでいる角田市の中でも日立ソリューションズ東日本の協力のもと、大震災が起きたと仮想した情報発信の仕方のワークショップを行いました。３回分けてワークショップを行ったうちの２回目を参加しました。非常に有意義で且つ為になるワークショップでした。
このワークショップを神奈川に持ち帰りたいぐらいです (と言いながら資料を神奈川に送ろうとしてますが)。内容を簡単に言えば大震災が起きた場合でどういう風に回りの皆に情報発信するかの議論と方法を見つけるワークショップ。
結構大切な事だと思います。実際大震災が起きた時、情報が錯綜していたら大変ですから。
とまあ何気なく宮城でも活動している私です。

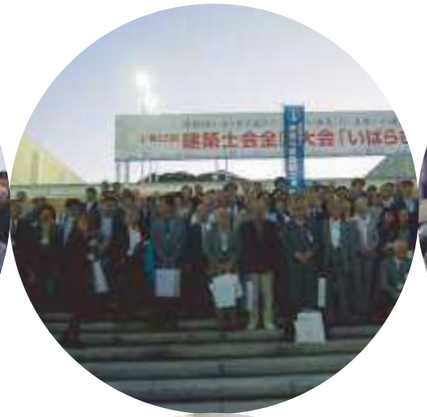
女性委員会のあゆみ　様々な活動を提案・実施してきました

平成 西暦	委員会の状況	主な活動内容	社協・福祉プラザ・まち協・神奈リハとの関わりの活動・福祉部会活動他	女性建築士との集い 交流会	連合会との関係 全国女性建築士連絡協議会	関ブロとの関係 その他
1年度 (1989年)	青年委員会女性分科会として活動			第1回女性建築士との集い 「建築と色彩」吉田慎吾氏	全国女性建築士連絡協議会準備会に参加	青年関ブロ(埼玉大会)
2年度 (1990年)	女性会員数78名(全会員の3%)	高齢化社会問題をテーマに勉強会をスタートさせた シンポジューム「長寿社会の住まい・まちづくり」開催・日大野村歓助教授	神奈川県福祉プラザの相談事業の「高齢者・障害者の為の住宅改造相談」で建築士として相談担当者派遣～平成19年まで(プラザでの相談はソーシャルワーカー・建築士・理学療法士・作業療法士のチームで相談対応する)	第2回女性建築士との集い 「高齢者の居住環境と地域との関わり」関東学院大渋谷栄一教授	第1回全建女開催(東京) 「単位士会女性部会(委員会)設置推進	青年関ブロ(茨城大会) 女性委員会の活動「長寿社会の住まいと技術」を発表
3年度 (1991年)	女性分科会から女性部会へ 愛称を「WES」とした woman's eye society	賀詞交歓会にて「女性建築士の見たニューヨークの建物」スライドによる発表(有志5人で行った研修旅行)	「人・暮らし・住まい展」神奈川県福祉プラザに企画から協力・住宅相談担当	第3回女性建築士との集い 「高齢者住宅の計画と運営」東京都老人総合研究所児玉桂子氏	第2回全建女(大阪) 「豊かさとうるおいのある暮らしを求めて～高齢社会と女性建築士～」	青年関ブロ(長野大会) 女性委員会発表の「建築士が連帯して組織を強化するには」が1位受賞して9月に全国研究集会幕張大会で発表
4年度 (1992年)	女性委員会発足 平成4年度　委員長　田鴎裕美 女性会員数130名程度 資質と技術の向上・相互の連帯と親睦を図る・地位の向上・士会加入の促進・社会に貢献.・士会の発展に寄与する活動を目的とする	4月WESニュース1号発行 ミニシンポ「ゆたかな老後のために」 福祉プラザ　浅田靖子氏 ミニシンポ「建築設計への取り組み方」 関東学院大星野芳久教授	まち協にシルバーリフォーム相談事業が発足し女性委員会で勉強してきた人の中から推薦され相談員を派遣(シルバーリフォーム相談員) 施設見学:ヴィンテージヴィラ横浜・特別養護老人ホーム「逗子ホームせせらぎ」	第4回女性建築士との集い 「住み続けられるまちと住まい」日大野村歓助教授 「高齢化社会における住まいと暮らし」のアンケートを神奈川県下で実施しその結果を報告 懇親会にて設立記念パーティを開催	第3回全建女(東京) 「生き生きと住み続けられる住居を求めて～高齢社会と女性建築士」	青年関ブロ(新潟大会)
5年度 (1993年)	平成5年度　委員長　田鴎裕美 月例勉強会 特別企画部会 調査研究部会 組織強化部会 青年委員会調整部会	ミニシンポ「高齢者住宅における福祉用具の活用」　理学療法士　田口順子氏 フォーラム「高齢者の安心して住めるコーポラティブハウス」 山崎立子氏 ミニシンポ「パソコンてなに ?」 内田勝康氏 福祉施設の見学:県内の在宅支援センター5ヶ所・グラニー鎌倉 「子どもの居場所はどこにあるのか」調査:地域の公園や放課後過ごす場所の調査をした 93よこはま住宅フェア—担当　まち協との共催のブース内でシルバーリフォーム相談開催	「高齢社会での住宅改造講習会」を開催:士会まち協福祉プラザ共催(開港記念会館)建築関係・福祉関係・医療関係の専門家が連携する住宅改造の講習会 シルバーリフォーム相談員が協力して住宅改造ワンポイントアドバイス「住まいはもっとやさしくなれる」をまち協から発行した	第5回女性建築士との集い 「空間の余韻」 山田初江氏	第4回全建女(愛知) 「高齢社会の一人暮らしを支える多様な住まい～高齢社会と女性建築士」	青年関ブロ(千葉大会)
6年度 (1994年)	平成6年度　委員長　田鴎裕美 女性会員数190名程度 CAD分科会発足 「高齢社会を考える」分科会発足	ミニシンポ「在来工法による木造建築の設計管理及び工事管理の留意点」 鈴木輝志郎氏 ミニシンポ「高齢社会のまちづくり」 川崎直宏氏 ミニシンポ「JW－CADを動かしてみよう」 「高齢社会の住まいとコミュニティ」 黒沢秀行氏 94よこはま住宅フェア—担当　まち協との共催のブース内でシルバーリフォーム相談開催	建築士と福祉・医療・保健関係の専門員とチームを組んで行う現地相談が津久井城山町社協をかわきりに実施 「高齢者住宅改造研修会」を開催:士会まち協福祉プラザ共催(神奈川県福祉会館) 施設見学:福栄会・ヴィンテージヴィラ向ヶ丘遊園	第6回女性建築士との集い 「高齢社会のライフスタイルと住まい」小谷部育子氏	第5回全建女(東京) 「女性建築士の地域における活動」 全大会で神奈川士会から活動報告「高齢社会に関する地域での長年の取り組みについて」発表	青年関ブロ(東京大会)
7年度 (1995年)	平成7年度　委員長　佐藤里紗 女性会員数216名(全会員の5%) 連絡部会 企画部会 研究部会 CAD分科会 「高齢社会を考える」分科会 子ども班	WESニュース10号発行 ミニシンポ「高齢社会の今後の展望」 東畠弘子氏 ミニシンポ「宅地地盤の見分け方」 若命善雄氏 よこはま近代建築めぐりⅠ 西川武臣氏 ミニシンポ 「来て、見て、さわってウインドウズ」 95よこはま住宅フェア—「安心・快適シルバーリフォーム相談」	「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催:士会まち協福祉プラザ共催　神奈川県福祉会館 高齢社会を支える住まいづくりセミナーに参加「社会政策としての生活環境整備」外山義氏	第7回女性建築士との集い 「子どもの生活環境を考える」 鈴木清氏	第6回全建女(岐阜) 「人にやさしい住宅づくり～自然環境との共生」	青年関ブロ(群馬大会) ＊兵庫県南部地震(M7.3) (1・17阪神淡路大震災)
8年度 (1996年)	平成8年度　委員長　佐藤里紗	ミニシンポ「コンクリートの性質と設計・施工の留意点」　服部高重氏 ミニシンポ「活かそうインターネット！開こうCADの未来を」 よこはま近代建築めぐりⅡ　堀勇良氏 ミニシンポ「高齢社会におけるホームロイヤーの役割」　増本敏子氏(弁護士) 96よこはま住宅フェア—「安心・快適シルバーリフォーム相談」	「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催:士会まち協共催(in平塚)	第8回女性建築士との集い 設立5周年記念シンポジウム 「高齢社会における住まいについての意識調査」のアンケートを実施しその結果を報告 パネルディスカッション 「快適に暮らせるまちと住まい」 コーディネーター　野村歓氏	第7回全建女(東京) 「安心して住み続けられる住環境を求めて～女性建築士の地域活動」	関ブロ女性建築士懇話会に出席 青年関ブロ(山梨大会) 第2分科会で女性委員会が発表
9年度 (1997年)	平成9年度　委員長　佐藤里紗 福祉部会発足	ミニシンポ「住まいと健康」高橋元氏 よこはま近代建築めぐりⅢ ミニシンポ「身体機能から住宅を見る」 理学療法士下田宏登氏 勉強会「神奈川県福祉のまちづくり条例」県福祉障害福祉課・都市部建築指導課担当者 97よこはま住宅フェア—「安心・快適シルバーリフォーム相談」	「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催「ケースワーカーと住宅改造」士会まち協共催(in相模大野) 施設見学:ヒューマンライフケア横浜(老人保健施設)	第9回女性建築士との集い 「女性の視点で住まいづくり・まちづくりを考える」 園田眞理子氏	第8回全建女(岡山) 「安全に、健やかに住み続けられる居住環境～健康住宅と女性建築士」 連合会委員:田鴎裕美	関ブロ女性建築士懇話会に出席 (協議会設立に向けて意見交換) 青年関ブロ(神奈川大会)
10年度 (1998年)	平成10年度　委員長　佐藤里紗 子どもの生活環境分科会発足	WESニュース20号発行 勉強会「横浜市福祉のまちヅクリ条例」 福祉局のまちづくり課課長 ミニシンポ「21世紀の子供の生活環境を考える」　定行まり子氏 勉強会「在宅介護と住宅改造」 升井孝子氏 よこはま近代建築めぐりⅣ ミニシンポ「CADの現状と可能性」 五十嵐進氏 98よこはま住宅フェア—「家族の会話がはずむ住まいづくり」	「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催:士会まち協共催(in横須賀) 神奈リハ主催住宅改造・福祉機器技術研修「快適な生活環境づくりセミナー」に講師派遣・講義「住宅改造のポイント」とワークショップ担当 関連異業種の専門員を招いての勉強会を開催 「高齢者・障害者の住宅改造相談における建築士の役割」 「高齢者・障害者の身体機能」 「介護保険制度について」	第10回女性建築士との集い 「21世紀に求められる建築士とは」 藤本昌也氏	第9回全建女(東京) 「女性建築士の地域活動～安全に、健やかに住み続けられる居住環境づくり～」 連合会委員:田鴎裕美 C分科会(バリアフリー関連)担当	関東甲信越建築士会ブロック会女性建築士協議会設立 青年関ブロ(栃木大会)

11年度 （1999年）	平成11年度　委員長　大川友理枝 福祉部会 バリアフリー住宅研究会 福祉のまちづくり研究会 地域相談検討会 研究部会 CAD分科会 子どもの生活環境分科会 企画部会 かながわ近代建築めぐり 特別企画（集いの開催） 広報部会 WESニュースの発行（年3回） ホームページ 活動アンケート（2年に1回） 連絡部会 各支部・その他の委員会との連携	かながわ近代建築めぐりV j. H. モーガンの作品をたづねて 見学会「かながわ夢モデルタウン」 ミニシンポ 「初心者のためのJW－CAD」 99よこはま住宅フェア―「安心して暮らせる良質な住まいづくり」 9月「UIFA国際女性建築家会議・第12回日本大会」の市民講演シンポジウム・横浜「明日の住まいと町を考える」に協力	「高齢者・障害者の住宅改造現地相談」6地域で実施：城山町・鎌倉市・寒川市・三浦市・津久井町の各社協・茅ヶ崎市高齢福祉課 「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催：士会まち協共催（in二俣川） 神奈リハ主催住宅改造・福祉機器技術研修「快適な生活環境づくりセミナー」に講師派遣 関連異業種の専門員を招いての勉強会 「福祉の住まい・まちづくりワンポイントアドバイス 「高齢者・障害者の為の住宅改造相談事業について」 「地域の住宅相談事業の動向について」 「身体機能を生かした住宅改造」 「介護保険に関する勉強会」 「住宅改造事例ワークショップ」 シルバーリフォーム相談員定例会議（まち協開催） 住宅改造相談事業連絡会定例会義（神奈川県社会福祉プラザ開催）	第11回女性建築士との集い 「環境と共生する住まい」 岩村和夫氏	第10回全建女（宮城） 「安全に、健やかに住み続けられる居住環境づくり～次世代のための取り組み」	青年関ブロ（埼玉大会）
12年度 （2000年）	平成12年度　委員長　大川友理枝	子どもの生活環境分科会勉強会 （フィールド調査のまとめ） 見学会「TOTOテクニカルセンター」 00よこはま住宅フェア―「みらいへつなぐ明るい住まい」横浜支部と共同で安全協会の合同ブースで出展 住宅改造相談育成の為の勉強会 「介護保険制度を利用した住宅改修と福祉用具の活用」 「高齢者・障害者のための住宅改造相談の受け方」 「住宅改造と身体機能」 「介護保険制度を利用した住宅改修」 「住宅改造の実例報告と検討」 「住宅改造ワークショップ」	「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催：士会まち協福祉プラザ共催（in厚木） 神奈リハ主催住宅改造・福祉機器技術研修「快適な生活環境づくりセミナー」に講師派遣	第12回女性建築士との集い 「環境と共生する住まい」 野沢正光氏	第11回全建女（東京） 「地域の環境と共生する居住づくり～建築士としての地域活動～」	青年関ブロ（茨城大会）
13年度 （2001年）	平成13年度　委員長　大川友理枝 女性会員数285名	明治大学大学院園田研究室協力により住宅改造に関するアンケート調査を行った 神奈川新聞「福祉の住まい・まちづくり、ワンポイントアドバイス」記事9回連載 見学会「介護専用型有料老人ホーム::トレクォーレ横浜青葉台」 01よこはま住宅フェア―「見つめてみよう、21世紀のやさしい暮らし」 住宅改造相談育成の為の勉強会 「住宅改造相談の受け方」 「住宅改造と介護保険」 「住宅改造と身体機能」 「住宅改造の実際」 「住宅改造ワークショップ」	「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催：士会まち協神奈リハ福祉プラザ共催（in川崎） 神奈リハ主催住宅改造・福祉機器技術研修「快適な生活環境づくりセミナー」に講師派遣 ホームヘルパー2級養成講座への講師派遣	第13回女性建築士との集い 女性委員会設立10周年記念シンポジウム「なが～く暮らせる住まい」 各部会活動の活動報告 リレートーク 「少子高齢社会のストックとしての住まいと地域環境を見直す」 園田眞理子氏・大月敏雄氏 ・歴代委員長 アンケート調査「神奈川県下における住宅改造の実態」の結果報告	第12回全建女（熊本） 「地域と共生する住環境づくり～地球環境からかんがえる～」 B分科会「環境共生」で活動報告 環境共生について神奈川女性委員会の取り組み	青年関ブロ（長野大会）
14年度 （2002年）	平成14年度　委員長　大川友理枝 実践住まい塾発足 建築環境分科会発足 地域相談研究会発足	WESニュース30号発行 歴史的建造物見学会「ベーリックホール」 福祉用具プランナー研修に協力 住宅改造相談育成の為の勉強会 「住宅改造相談の受け方」 「住宅改造と身体機能」 「福祉用具の関わりと住宅改造」 「介護支援専門員による住宅改造の考え方」 「住宅改造の実際」（改造事例から） 「住宅改造ワークショップ」 横浜市と共催で福祉のまちづくり合同研修会開催 （市職員と一緒に高齢者の疑似体験や車いすでまちを体験する）	「高齢者・障害者の住宅改造現地相談」12地域の社協と2市で実施 「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」（高齢者・障害者・こどものだれにもやさし住まいとまちづくりをめざして）を開催：士会まち協神奈リハ福祉プラザ共催（in藤沢） 神奈リハ主催住宅改造・福祉機器技術研修「快適な生活環境づくりセミナー」に講師派遣 まち協主催「高齢者向け住宅改造施工業者登録制度」への協力	第14回女性建築士との集い 「あなたがつくる課外授業」 山口明宏氏	第13回全建女（東京） 「地域と共生する住環境づくり～さまざまな職域・地域で活躍する建築を担う女性たち～」 全大会で神奈川士会から活動報告「子どもの居場所はどこにあるのか」	青年関ブロ（新潟大会）
15年度 （2003年）	平成15年度　委員長　浅見美穂 技術支援委員会発足に伴い福祉部会・子どもの生活環境分科会・建築環境分科会が女性委員会から移行 「女性建築士との集い」を神奈川県建築士会全体の行事と位置付け以後「交流会」とする	実践住まい塾のテーマ「自然素材・エコハウス・木構造」 住宅改造相談育成の為の勉強会 「高齢者・障害者の身体機能と脳の関係について」 「福祉用具と住宅改造」 歴史的建造物見学会「国府津まち歩き」	神奈川県内の公的住宅改造相談窓口が18ヶ所で開設。内11ヶ所で神奈川士会女性委員会から派遣 派遣先：かながわともしびセンター、三浦市・逗子市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川市・海老名市・綾瀬市・城山町・津久井町の社協。茅ヶ崎市高齢福祉課 「高齢社会の住宅・まちづくり研修会」を開催：士会まち協神奈リハ福祉プラザ共催 神奈リハ主催住宅改造研修「快適な生活環境づくりセミナー」に講師派遣	第1回士会活動交流会 「住まいの環境と人の五感の問題」 宿谷昌則氏	第14回全建女（兵庫） 「地域と共生する住環境づくり～復興都市から考える「まちとくらしの未来像」～」 G分科会「高齢社会」で活動報告 「神奈川における住宅改造相談の実態」と題して神奈川で取り組んだ住宅改造相談のあゆみと現況の報告	青年関ブロ（千葉大会）
16年度 （2004年）	平成16年度　委員長　浅見美穂	実践住まい塾「免震戸建住宅・木構造の基本と伝統構法・貫構法の木造軸組・免震戸建住宅の設計」	神奈リハ主催住宅改造研修「快適な生活環境づくりセミナー」は引き続きまち協シルバーリフォーム相談員から講師派遣 （女性委員会活動ではないが継続として以下記入）	第2回士会活動交流会に協力 「まちの縁側は楽しいナ」 遠藤安弘氏 ＊ここまでは女性委員会主催	第15回全建女（東京） 「地域と共生する住環境づくり」～美しい人・まち・くらし～ 全大会で神奈川士会から活動報告「子どもを対象とした住まいのワークショップ」に関する活動」	16年度関東甲信越ブロック会女性建築士協議会会長：神奈川県大川友理枝 青年関ブロ（東京大会） ＊新潟県中越地震（M6.8）
17年度 （2005年）	平成17年度　委員長　雨森隆子 第一回運営委員会にて関ブロ神奈川大会へ向け青年委員会と合同委員会とする事を決定し神奈川大会実行委員会を設立	WESニュース40号からリニューアル 歴史的建造物見学会「若命家長屋門修復工事に学ぶ」 実践住まい塾：建築環境部会の後援 「木構造の基本と伝統工法」	神奈川県社協・ともしびセンター主催住宅改造入門セミナー「高齢者にやさしい住まいとは」住宅改造の実際 神奈リハ主催住宅改造・改修研修「障害者・高齢者の為の住宅改造・改修セミナー」	第3回士会活動交流会 「感染するまちづくり」 ～まち・歴史・まちづくり～ 宮本忠長氏 神奈川大学セレストホール （青年委員会と合同主催）	第16回全建女（香川） 「地域と共生する住環境づくり」～身近な素材を未来へつなぐ～ 連合会副委員長：大川友理枝 G分科会「高齢社会」担当 F分科会で「子どもと環境」活動報告	17年度関東甲信越ブロック会女性建築士協議会会長：神奈川県大川友理枝 青年関ブロ（群馬大会） 「子どもの生活環境部会」活動報告が発表で1位受賞
18年度 （2006年）	平成18年度　委員長　雨森隆子 関ブロ神奈川大会に向け建築士会一丸となり準備本格化 建築士会事務局が松島ビルから建設会館5階へ移転	スキルアップセミナー「他では聞けない！オール電化住宅設計手法」青年委員会と共催 鎌倉市常盤住宅設計競技現地見学会	神奈リハ主催住宅改造・改修研修「障害者・高齢者の為の住宅改造・改修セミナー」	第4回士会活動交流会 ～建築士と手をつなごう～ 関ブロ神奈川大会のプレ大会 神奈川大学セレストホール （青年委員会と合同主催）	第17回全建女（東京） 「地域と共生する住環境づくり」～住まいの安全をまもる～ 連合会副委員長：大川友理枝 全大会で神奈川士会から活動報告「子ども住まいワークショップ」	青年関ブロ（山梨大会） 「旧モーガン邸から始める景観まちづくり」発表 青年関ブロ神奈川大会へのアピールの為応援隊54名参加

19年度 (2007年)	平成19年度　委員長　有泉ひとみ 昨年まで関ブロー色の活動から、活動内容の見直し情報の発信としてホームページの充実・参加者へ活動内容の感想文を依頼しHPにて発信 新規会員勧誘	第1期　自分でやってみよう～在来木造3階建ての構造計算・・初級編（全7回） 新規登録者セミナーを青年委員会と企画 「自己研鑽のすすめ～先輩建築士に聞く、これからの建築士として」 姉歯問題から構造計算を身近に考えソフトに頼らず自ら計算する勉強会を企画		第5回士会活動交流会に協力 「防災を考える」新潟県中越地震キャラバン隊の取り組みから 岡嶋和裕氏 （以降主催：建築士会）	第18回全建女（青森） 「地域と共生する住環境づくり」～自然とこだまする～ 連合会副委員長：大川友理枝 連合会委員：永井香織 B分科会で「建築士制度と士会活動」青年委員長が活動報告	関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会・神奈川大会 テーマ「学び考える建築士」 実行委員長：永井香織 副委員長：雨森隆子 ＊新潟県中越沖地震（M6.8）
20年度 (2008年)	平成20年度　委員長　有泉ひとみ 神奈川県建築士会の活動の中心を横浜以外の地域に広げる 本会と支部の繋がりをつくる事を目的に「交流会」を各支部を中心に協力のもと開催	WESニュース46号から情報広報委員会編集協力で支部・委員会だよりを掲載開始 第2期　自分でやってみよう～在来木造3階建ての構造計算・・初級編in相模原（全7回）	神奈リハ主催障害者・高齢者のための住宅改造・改修セミナー「住宅改造事例・事例検討」	第6回士会活動交流会に協力 小田原支部大会 「地域再生」 パネルディスカッション ～伝統の技能を未来に託して～	第19回全建女（東京） 「地域と共生する住環境づくり」～住みかえに学ぶ～ 連合会副委員長：大川友理枝 連合会委員：永井香織 A分科会「住みかえ」で「事例と実現化における問題点」報告 E分科会「歴史的な建物とまちなみ」でモーガン邸の保存再生・」活用について発表	青年関ブロ（栃木大会）
21年度 (2009年)	平成21年度　委員長　広岡まり 青年委員会・技術支援委員会・各支部などと積極的に連携する 全国大会山形に参加	WESニュース48号・49号・50号の発行 「江の島へ行こう！」 ～江の島の景観まちづくりを見て考える～ 契約約款などの勉強会	神奈リハ主催障害者・高齢者のための住宅改造・改修セミナー「住宅改造事例・事例検討」	第7回士会活動交流会に協力 県庁職域支部大会 「残したい！伝えたい”」 まちづくりは、人づくり 西和夫氏	第20回全建女（長野） 「地域と共生する住環境づくり」～建築における(環(WA)を考える～ 連合会副委員長：永井香織	青年関ブロ（埼玉大会）
22年度 (2010年)	平成22年度　委員長　広岡まり 士会倉庫整理に参加	「木造塾」構造を基礎から学ぶ ～描いてみよう！木構造伏図 （4号特例廃止に備える）～4回シリーズ 相模原方面特別支援学校（仮称）現場研修会		第8回士会活動交流会に協力 川崎支部大会 「景観シンポジウム」 パネルディスカッション ～こころに残るかわさきの風景～	第21回全建女（東京） 「女性建築士の新たなる出発」 連合会副委員長：永井香織	青年関ブロ（茨城大会）
23年度 (2011年)	平成23年度　委員長　杉田姫美子 テーマ「地域コミュニティの再生」と「ECO]を考慮した災害時活用住宅のあり方 女性の視点から防災を考えるとして今知りたい情報・勉強したい内容についての意見や建築士として災害時に何ができるかー緒にに考えていこう	WESニュース53号、54、55号の発行 セミナー「今、被災地の学ぶ」 岩手建築士会女性委員会主催の花咲きプロジェクトに参加 勉強会：不動産鑑定士による日本大震災一年後報告会」 地盤セミナー「被災地から学ぶ・住宅地盤への対策」		第9回士会活動交流会に協力 相模原支部大会 「ヴァナキュラー建築から未来の住まい方」 JAXA　ISS科学プロジェクト室長	第22回全建女（京都） 「景観まちづくりからコミュニティの再構築へ」～京都で考える　日本のまちと暮らし～ 連合会副委員長：永井香織	青年関ブロ（長野大会） ＊東北地方太平洋沖地震（M9.0） （3.11東日本大震災）
24年度 (2012年)	平成24年度　委員長　杉田姫美子	防災委員会とのコラボセミナー 「神奈川の大規模災害と減災について」 委員会内課外研修/体感見学会 実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座に参加（神奈川大学＆防災塾だるまの共同企画） 神事協主催仮設住宅コンペに参加 活動アンケート実施		第10回士会活動交流会に協力 中支部大会 「高齢化社会に求められる建築とは、建築士の役割とは」 園田眞理子氏		青年関ブロ（新潟大会）
25年度 (2013年)	平成25年度　委員長　浦　絵美 女性会員数379名（全会員の12%） テーマ：女性の目線から防災・減災を考える～コミュニティづくり～	WESニュース56号の発行 委員会規程作成 防災委員会とのコラボセミナー 「防災・減災について考えよう ～HUGから学ぶ～」 青年委員会とのコラボセミナー 「フォーラム次世代の建築とランドスケープ」 女性委員会20周年記念イベント 「つどう・つくる・つながる」		第11回士会活動交流会に協力 横須賀支部大会 「近代建築の幕開けと横須賀」 山本　詔一氏 正垣　孝晴氏	第23回全建女（東京） 「地域と共生する居住環境づくり」～見直そう、これからの住環境とっ暮らし方～ 連合会委員長：永井香織	青年関ブロ（千葉大会）
26年度 (2014年)	平成26年度　委員長　浦　絵美 女性会員数367名（全会員の12%） テーマ：つどう・つくる・つながる・ひろがる	WESニュース57号、58号、59号、60号の発行（SALON内にて） 防災委員会とのコラボセミナー 「防災・減災について考えよう ～HUGから学ぶ～」 （横須賀支部、宮城県建築士会：共催） 委員会内勉強会の実施（計4回） 「女性委員会のあゆみ」の記念誌発行準備		第12回士会活動交流会に協力 湘南支部大会 「鎌倉で学ぶ、歴史を生かしたまちづくり」 奥山信治氏	第24回全建女（東京） 「未来へつなぐ住環境づくり～大切にしたい暮らし方～」 A分科会「防災への取り組み」にて防災委員会との協働活動の報告と「避難所運営の疑似体験」ができるワークショップを行った	青年関ブロ（東京大会）
27年度 (2015年)	平成27年度　委員長　浦　絵美 テーマ：つどう・つくる・つながる・ひろがる　そして支えあう 企画部会発足	WESニュース61号の発行 （SALON内にて） 防災委員会とのコラボセミナー（12月予定） スキルアップ講習会の開催 1．構造編：張玄梁を学ぼう （神事協湘南三浦支部：共催） 2．設備編（3月予定） 「女性委員会のあゆみ」の記念誌発行		第12回士会活動交流会に協力 横浜支部大会	第25回全建女（東京） 「未来へつなぐ居住環境づくり～大切にしたい暮らし方～」 連合会委員長：永井香織	青年関ブロ（群馬大会）
					福祉プラザ（神奈川県福祉プラザ）元ともしびセンター	
					まち協（かながわ住まいまちづくり協会）	
					神奈リハ（神奈川県総合リハビリテーションセンター）	
					社協（社会福祉協議会）	
					神事協（神奈川県建築事務所協会）	





ここ数年の活動その 1　（20 周年イベント、コラボセミナー、委員会内勉強会、仮設コンペ提出、TVK 出演　など）

建築との関わり

私たちは建築とどう向き合っているでしょうか。

「女性が輝く」ということに対して抱いた女性建築士の視点から最近思うこと

清水　麻紀　（広報担当）

日本は資本主義の国だ。いまだ減ったとはいえ孫や子供を持つ人が大多数であって、誰もがその将来に一抹の不安と希望を感じつつその今が安泰であることを願っている平和な時代、女性である私たちは今を生きていて、子供も孫も資本主義の恩恵の中、今を楽しんでいる。資本主義万歳。その子供たちが成人して、いつか家族を持つだろう。はて、私には子供ももちろん孫もいない。それは別次元の話だが、では今を生きる子供の未来、成人して家族となった後の見ることの無いかもしれない子供たちに想いをはせる人がどれほどいるのだろうか？今騒がれている年金と税金と国の借金の問題は自分たちが老いと病を自覚する頃に明らかになって、私たちはつけを支払うことになるかもしれない。先送りをすることも出来る。それに、適切な対応を取って回避することも出来そうだ。一抹の不安の原因は別にある。

昔私が小学生の頃、母たちが抗議活動や反対運動をしていたこと、安全を守るために地道な活動をしてきたこと、孫やその子供たちにたいして、もっと責任があること、もっと自覚しなければならないことにきちんと取り組んできたことを忘れていないだろうか。昔の母たちの立場で見れば今、大切なことは負の遺産、それは放射能がどうしようもないということだ。すでに環境中にばら撒いてしまい、懲りずにまだ新しく人工的に生成し続けていることだ。即刻やめるべきだろうと私は思う。福島原発からの放射能による人体への危険性は統計上はとても低いものかもしれないし、チェルノブイリでも明らかになったように放射能では統計上はそれぞれの世代は大して死にはしないこともわかってきている。だから資本主義の判断基準に照らして安全だというのはわたしの言いたいことではない。昔何かで知って思い出せないのだが、放射能に対し、心底いやだし嫌悪をもったことを思い出す。放射能は直接死ぬ恐れは限りなく少ない。それでも私たちが死んで随分経った後でその時代の誰かその大切な家族のひとりが病気になったとき、その原因は私たちの残した放射能のためということが確実だという。さらに、次世代のどの時代かでテロや想定外のことで原子力発電施設が破壊されたり、放射性廃棄物の管理が予算不足などの予測しうる要因で暴走し、大惨事が起きるかもしれない。お金にもならないひどい宿題だ。私たちの親の世代は母たちの反対を押し切って核の使用を始めてしまったし、さらに増やそうとしている。どうもしようが無い負の遺産は残すべきではないのは自明だが、反対を唱える人も少なくなった。私たちは資本主義の中で活躍し、輝くべき存在なのだ。資本主義という主にプロテスタントを起源とする思想は、その根幹に富は富を生み出すために使用しなければならないという教義があるそうだ。

私たちは洗脳されてしまったのだ。仲間はずれは除外されるし、本能的に次世代に良くないことがわかる人も減ってしまった。現代人は大地から離れすぎたのかもしれない。女性も資本主義の中に組み込まれて、思考も同化しつつある。女性だからという言葉の違和感もそのうち無くなっていくかもしれないし、子供を生む性としてやはり判断する独自の基準を持ち続けるのかもしれない。それは個々人の思うところだ。この委員会は建築業界で働く女性たちがメインで、かつ女性としての人生を歩んでいる。この仲間たちと一緒に技術の向上など実際的なことも充実しつつ、様々なことを女性の視点で一緒に考えていけると良いと思う。

日々思う事

芝　京子

別荘設計の紹介を頂き、施主との初めての打合せにて、お目にかかった時、名刺をご覧になって、「えっ！一級建築士さんですか？あなたが設計なさるのですか・・・・・女性の設計士って知らなかった」こんな会話のやり取りがありました。２０代の時でした。晴れて一級建築士に合格し、同時に建築士会にも入会。なんとなく社会的責任の重さを感じ始め、改めて気の引き締まる思いが強くなっていた、そんな時でした。

別荘という非日常空間における、数々の提案をよく御理解いただきながら完成し、おいしいワインを頂いたことが、つい昨日の様です。数年後に、施主の企業の建物の設計を御依頼頂いたことは、感謝にたえません。

アメリカにおけるミース、Ｆ・Ｌライト他、ヨーロッパにおいては、ル・コルビュジェ等、放浪の旅の中、ギリシャの島々、特にシカゴ　ライトのオークパークの作品群には、強い衝撃を受け、Ｆ・Ｌライトとの関わりは、ＮＰＯ法人ライト・ウェイ・ソサエティにおいて、ライフワークの１つにもなってしまいました。

さて、アベノミクスとやらで女性の活用について騒がれていますが、能力のある女性が充分活躍できる事は大変良い事ですし、社会貢献にもなります。女性が活躍する会社を、なでしこ会社というそうですが、業績も良いという事です。ただ、その言葉に踊らされず、女性・男性に関係なく、教養のある人間建築士として粛々と道を歩んでいくという事が大事ではないでしょうか。

建築士を取り巻く社会環境の目まぐるしい変化、業務の多様化、戸惑う事が多いですが、創造という物造りの原点を忘れず、常に夢のある未来に目を向けていきたいと思います。

建築という仕事

安藤　めぐみ

私が「建築設計」を職業とするに至るのは自然な縁のようなものだった。
それからは、知れば知る程「建築」という分野に恋焦がれ、そのくせ手を伸ばすとその先に見えていなかった幾つもの扉が現れてしまうような、近くて遠い、そんな存在となっていった。
社会人として最初に仕事に就いたのは、大きな組織の「営繕部、建築担当」という立場だった。
大きな施設の一部改修か、小さな建物の改築の設計が主であったため、今思うとその業務は極めて地味なものであったが、何もかも初めて身をもって経験する事ばかりだった私にとっては、「建築」に携わる事が楽しくて仕方がなかったのを覚えている。

それから現在に至る殆どの時間を建築と共に歩んできたようにも思うが、この人生の中で半年間のみ、
外資民間会社の中で、「秘書」という仕事をしたことがある。
あまりに「建築」に執着し視野が狭くなっていたため、他の業種を経験してみたくなったのだ。

既に独立をしていたため孤独な毎日を送っていた私であったが、一転、オフィスに行けば同僚が沢山居て、時間になればカフェテリアでランチを取り、仲良くなった女子と週末出かける様にもなるなど、
毎日が潤っていくのを感じた。
秘書たるもの、直属の上司が如何に効率よく仕事できるか、いらっしゃるお客様をどのようにもてなすか、日々のルーティンワークの中で常にそのような事を考えていた、のだが、
しかし、楽しかったのは初めの頃だけであった。
その上司の「仕事に対する考え方」や、「部下に対する配慮」など学ぶところは多かったが、3ヶ月も経つ頃にはまた「建築」の事を考え始めていたのだ。

現在は設計事務所を運営しているのだが、どこか今までの私の執着に「建築」の方が多少歩み寄りを見せてくれているような感がある。以前よりは「建築」を近く感じるのだ。
結局好きで続けているこの「建築設計」という仕事ではあるが、最近また新しい局面を迎えようとしている。女性が好きな仕事を続けて行く、という事はラッキーな経験だったのかもしれない。しかし時代はこれからも転換し続け、そして私もまだ人生の途中である。この先、自分が建築を絡めて何を発信していけるか、「楽しんで行くか」と、自分にエールを送るのである。

建築と子どもたち

福井　綾子

「建築と女性」つながりでは女性委員会に参加していました。女性建築技術者の会、UIFA JAPON にも顔を出しています。「東京の建築士会女性委員会公開シンポジウム」にこれからの暮らしにとって大事なテーマと思い、参加しました。ここでは２年毎のテーマを決めて取り組んでいるもので「住み継ぎの作法」というテーマでした。一方、女性建築技術者の会は１９７６年発足で　４０周年を迎える予定です。こちらの会では自分たちの今後、これからのことが話題になっています。
これまで、自分たちも先輩の経験からいろいろと学びました。これからはこちらの番です。例えば、現役で建築を学ぶ学生との交流会も企画案第一弾です。また、学生より若い世代に建築にふれる機会をつくるということでは子どもたちとの
つながりです。個人的経験でいえば、就学前になくなった父との思い出があります。あぐらをかいた父の膝に座り、百人一首のかるた遊びの記憶がかすかに残っています。北国では正月は家のなかで「カルタ」「トランプ」「花札」が盛んでした。
三つ子の魂百までとのことわざからいえば、小さい時に耳にした言葉が当時はわからないままでも、やがて意味を理解することができると思うからです。
　そこで今後の企画案第二弾としては、【いえかるた】はどうでしょうか。取り札はひらがなをみぎうえに【ひらがなの一文字】と札の真ん中に【絵】を入れます。読み札もひらがなで、例えば【かたぐるま　てんじょうに　てがとどく】【こどものひ　はしらのきずは　おととしの】【かべに　みみあり　しょうじにめあり】等々。建築にまつわることばに子どもたちがふれていきます。こんな企画案はいかがでしょうか。

建築・都市の風景を読み解く

片山　里奈

15 年ほど前の事になる。子供の頃から何故か憧れがあったチベット（中華人民共和国内のチベット自治区）にツアー旅行に出かけた。カトマンズ経由でヒマラヤを越える空路での入国で、1999 年 9 月末から 10 月にかけての 3 泊 4 日の滞在だった。

予備知識もないまま、「地球の歩き方」に掲載された、草が生い茂る「ポタラ宮前広場」を自分の目で見たい一心で現地にたどり着いた。高度に順応するために、ラサ到着当日はゆったり過ごし、実質的な観光は翌日と翌々日にスケジュールされていたが、心配していた高山病も到着当初に軽い頭痛があった程度で問題はなかった。
滞在 2 日目は、現在インドに亡命中のダライ・ラマの居住兼チベット仏教の象徴でもあるポタラ宮、チベット仏教の総本山である大昭寺、セラ寺、デプン寺、ダライ・ラマの夏の離宮であったノルブリンカを訪れ、3 日目はヤルツァンポ河を船で渡り、トラックに揺られてサムイエ寺に観光に出かけた。短い滞在ではあったがチベット文化を満喫するはずであった。

ところが、実際に目にした光景は、私自身の中で予定されていたものとは何かが違っていた。勿論、街の中では巡礼中のチベット族の人々の姿があり、寺の中にはエンジ色の袈裟を身につけた僧侶の姿も見えた。しかし、チベットらしい光景以上に中高層のコンクリート造の四角い建物が幅を利かせ、ポタラ宮、ノルブリンカ等の観光地としても人気の高い場所においてすら、少し脇道にそれると廃墟になりかけている家屋や建物が目につくのであった。

極めつけは滞在 3 日目のことで、ラサを離れて英語を話すチベット人女性ガイドとそのガイドの夫と名乗る男性とともに片道 3 時間をかけてサムイエ寺に向かったときのことだった。全体が立体曼荼羅として建設されていることで有名なこの寺も、おそらく全体の半分程度が何らかの理由によって破壊され、半分朽ちた状態でたたずんでいた。寺とその周りの村以外は荒地のような地域にあるこの寺を、誰がなぜこのような状態にし、放置しているのか当時は見当もつかなかった。すべてが想定外のことであり、違和感を抱えたままラサのホテルに戻った私を待ち構えていたのは、ポタラ宮前広場を闊歩する人民解放軍の兵士と、ロケット弾・装甲車の行進だった。軍事施設等一切の撮影が禁じられているために当時の写真は残っていないが、全旅程を終えてラサを離れる前日の 1999 年 10 月 1 日、チベット人の支配階層から農奴が解放されたとされる 40 周年を祝う式典に図らずも遭遇したのである。2008 年に開催された北京オリンピックの際に広がったチベット自治区、あるいはチベット文化圏内での暴動をきっかけに、中国国内での少数民族の存在を知った方も少なくないと思う。このときのチベット族による中央政府への激しい抵抗運動を理由に、チベット人やチベット文化に対する締め付けが一層強化され、中国国内のチベット文化圏及びその地域への外国人の立ち入りは非常に難しくなっている。「地球の歩き方チベット」の最新版をひもとけば、2000 年以降に進められた西部大開発や、西寧とラサを結ぶ青海チベット鉄道の開通を皮切りに、自治区内での開発が進行し、観光地化に伴うホテルの建設ラッシュやダム建設による川の流量激減の様子が見てとれる。

15 年前に数日間チベット自治区を訪れた際に私が目にしたものは、ごく限られた範囲の都市や建築の有り様ではあったけれど、文化が存続する土台があるからこそ、その文化に根付く建築様式が継続していくのだと改めて思う。短い間に起きたラサの風景の変化の意味について考えるとき、チベット仏教文化圏が共産主義文化圏に飲み込まれてゆく過程を目にしたというよりも、未開発の地域が資本主義の圧倒的なエネルギーに飲み込まれていく過程を、正に目撃していたのだと理解することができるのかもしれない。

「地球の歩き方 2014-2015」に掲載されているラサの町

1999 年に撮影したラサの町

建築と音楽

横山　夕岐子（副委員長）

私にとっての「音楽」とは、建築に進むきっかけのひとつです。
学生時代、吹奏楽部に在籍し、様々な地域の音楽ホールや劇場で演奏してきました。どの建築も素晴らしい内観、外観のものが多く、学生の私にとって規模の大きい建築物は圧巻であり、魅了したのを今でもはっきりと覚えています。
そして、様々な会場を回るうちに「このホールは演奏者と観客との距離が近い」、「この会場はエントランスの解放感が気持ちいい」など観客として、「この劇場は演奏者からの視界もよいので、気持ちよく演奏ができる」、「ここは舞台に向かう舞台裏の雰囲気がよく、モチベーションを高めることができる」といった演奏者として、両者の目線で建築を見るようになっていきました。
特に自分たちの演奏会を主催する際には、会場の建物内を隅々まで確認をし、普段見ることが出来ない裏方を見ることで、設計者の細部までのこだわり、心配りを実感いたしました。

そして建築の仕事に就いている現在、自分の携わった建物によって多くの人々が様々な捉え方をする中で、ひとつの思い出として記憶に残せる仕事が出来る事を、強く願っています。

女性委員会で実現したいこと

高橋　愛枝　（会計）

女性委員会に参加するようになり１年程度が経ちました。イベント毎に準備や会場設営、買い出しなどに行くのが大学時代のサークルのよう？で楽しみを感じています。今年のイベントでは折り紙建築とピザ作りに参加しました。折り紙建築は最初に完成品を見ましたが、これを１枚の紙で作ったの？と思うほどきれいでした。イベントでは時間制限がありましたが、細かい作業が好きな私は難しい細かい作品を時間をかけてゆっくりきれいに作りたい！と思いました。ピザ作りは建築ではないですがものつくりという点で同じですね。建物も出来上がったものを見る喜び、ピザは食べる喜びがあり、どちらもいいものだと感じました。

最近では自然災害発生時の損害調査業務についての勉強会に参加しました。災害発生時に建築士の必要性を感じ、建築士として人助けになることをやっていきたいなと思いました。人助けをしたいということで思い浮かぶのが、私が一級建築士を取得してから周りの人に自分の住んでいる住宅について聞かれることが増えました。私はゼネコンに勤めているため、住宅に関しては「？」と思うことが多いです。でも他の人から見たらどこに勤めていても建築士としては同じです。幸い、女性委員会には建築業界でも様々な分野の方が参加しているので聞いたりできますが、さらに理解を深めるために住宅相談などで聞かれることについての勉強会ができたらなと思います。あと何年くらい住めるの？メンテナンス時期はどのくらい？この間取りはどうなの？ 30年以上住んでいる住宅だけど耐震は大丈夫？など。女性委員会の活動で自分が普段仕事で携わっていない建築分野の理解を深めていきたいと思います。それによって私自身、身近な人にも建築士としての手助けができるようになれればと思います。

建築家としての貢献

脇谷　聡美

女性委員会での初めての活動は、鎌倉のまち歩きの見守りスタッフでした。古い町並みは好きなので何度か観光として歩いたことのある道でしたが、建築士会の方々と近代建築に触れることで、より鎌倉の建築を知るまち歩きとなりました。

なぜ、古いものに興味をもつのか。自分自身が岡山出身で倉敷の美観地区は、家から電車に乗り、３０分ほどで行ける身近に古い町並みに触れるところでした。地元にいるときはわからなかったけれど、建築を知り、設計して、技術の継承や保存の難しさを痛感しました。

現代の建築基準法には合わない建物が当時の技術で検証されて作られそれが 300 年ほども保ち続けていることは素晴らしく、技術的にも法規的にも新しく作ることができない古い建物を残していきたいと思っています。

まちを歩き、交流を深めること、また、古い建築に触れ、これを残していこうとすることの大変さや努力のなかで残ってきた、よき建物にふれることで、それらを残そうと思う心が生まれました。引き継がれ、引き継ぎ、続いていくために建築家として私にできることの一つとして、考えるようになりました。

女性委員会では、まち歩き以外にも他の委員会とコラボセミナーを行っていて、新しい発見や興味がもてて年齢も幅広いのでいろいろな話ができます。今後も積極的に活動していこうと思っております。

写真館の天井は鉄板を手打ちして作られている話などを聞かせて頂き、感激したこと。木造の手摺にガラスがはめ込まれている吹き抜け部分は、トップライトを使っていて、おしゃれだったこと。湯浅物産館には、昭和初期に建てられた木造の建物は大きな木の丸太を利用した壮大感があり、味わいがあること。運搬用トロッコの線路が残っている三河屋本店、青森から曳き家した酒蔵など、今までと変わらず建っていてほしいと思いました。

ダンボールパーツで立体づくり。

「つくってみよう！夢の家」グループでダンボールの家を作りました。

カッターも上手に使っています。

小学校で総合学習の授業支援　自分たちの街をつくりました。

子どもの生活環境部会のスタート

関口　佐代子（技術支援委員会　子どもの生活環境部会長）

子どもの生活環境部会のスタートは女性委員会の分科会としての活動でした。
約 20 年前に、『子どもにとって魅力的なまちや空間』『子どもの居場所』などを考え、女性委員の方々の協力を得て公園調査や放課後調査を実施しました。
2003 年の女性委員会主催の「つどい」では「子どものための課外授業プログラム」を作るワークショップを開催し、様々な企画の種となるアイデアをいただきました。
そのアイデアを元に、その年に初めての子ども対象ワークショップ「つくってみよう！夢の家」を川崎市で開催してから 10 余年、現在の子どもの生活環境部会は、調査や発信、学習など様々な分野の活動を行っています。特に発信活動では、模型工作ワークショップのみならず、建築の仕事体験や建物探検、まち歩きのワークショップ等を実施してきました。活動の場も、地域の市民館や学童から、小学校の授業支援、そして歴史的建造物にも子ども達に触れる機会を、と考えています。
最近では 10 年前の参加者が大学生スタッフとして参加したり、元学生スタッフが社会人となりアドバイスをくれたり、活動を続けてきたことに対する何よりのご褒美を得ることが増え、嬉しい限りです。
女性委員会から芽が出た子ども部会ですが、蒔いた種が大きくなり、また種を蒔く存在になってくれるという繋がりを大切にしていきたいと思っています。
いつもご協力頂き、応援してくださっている女性委員会への感謝をこめて、
20 周年おめでとうございます。

介護者研修受講体験のこと

茶谷　亜矢　（副委員長）

この秋、介護職員初任者研修認定講座（旧制度のヘルパー二級）を受けて来ました。若い頃市民ボランティア講座を受けてボランティアに通っていたりしましたが、その頃は純粋に設計業務にプラスになる体験と思っていたものが、もはやプライベートに役立つ年頃になって来ました。事実、父を看護した時に、この知識があればもっとお互い楽だったかもと思っています。
もちろん日頃の仕事もしながらなので、休憩時間に電話連絡、宿題やレポートはテキストの拾い読みでなんとかしのげたものの、実習（通信なのに 16 日もある！）はそういうわけにいかず、四苦八苦。普段使ってない体を使うのですぐ筋肉痛にもなりました。
でも、ともに同じ目標目指す同士の老若男女との出会い自体も新鮮で、腰痛を防止するのにも必要なボディメカニズムは、今までぼんやり感じていたことがちゃんと学問になっている事に驚きでした。（運動する人はもちろん普通の人も役に立つのに、一般にはあまり広まっていないようですね。）
介護の世界は 2000 年に介護保険法が施行されてから大きく変化してきました。が、制度の見直しも多く予定され、まだまだ成長中だということも分かって来ました。まだまだ、変わっていくのです。（ついていかねば。）
さて、実際研修をうけての大きく感じたのは、立場が変わると目線が大きく変わること。それとともに、今まで自分の中で腑に落ちなかったことが何なのかみえてきました。今までは介護については住宅改修の頭でしかいなかったわけです。以前仕入れた知識より、介護用具種類やデザインや機能が多様化していること。被介護者の症状は固定化されるわけでなく、改修時に定着するものでないこと、つまり改造した部分が不要になる、ということが多々ある―という真実は、見えていた向こう側とこちら側がひっくり返る衝撃でした。
もしや介護のための住宅改修は介護用具やユニバーサルデザインの発展発達とともに半減して行くのでは？という思いさえ浮かんで来ました。むしろ、間取り変更や耐震改修を伴う空間を大きく取る大掛かりなリフォームはより必要になって来るのかもしれません。一方、限られた空間の中で熟練のヘルパーさんたちが頑張っている現実も見過ごせません。
実習を受けて一週間後、大きな乗換駅のあるホームで全盲の方に出会いました。白杖は持っていたのに両方向へ急ぐ人々で混雑するホームでは気付く人もなく、その方はいろんな人にぶつかっていました。危ない！そう思うと、追いかけて話しかけていました。『何かお手伝い出来ることありますか？』。すると即座に『では肩を貸してくれますか？』と言ってくれて、若くて生まれつきだから大丈夫と言われ、うまくリードしてくれて私が助かったほどです。歩く速度、階段の初めと終わり、手すり、エスカレーターの踏み出し、電車の昇降・・・冷や汗ものでした。「大丈夫ですよ、助かりました」と。修了試験のようでもありました。
これらの体験を通して少し意識が多少変わりました。簡単に言えば街で困っている人に声を掛ける抵抗が少なくなったのです。その、メイアイヘルプユーの精神、それは建築の設計や現場管理にも通じるような気がします。良い経験でした。昔は女達の負担が多かった分野ですが、だからこそ今見えてくるものもあるのかもしれません。

委員会の活動

主な活動報告

女性委員会との出会い

永井　香織（連合会女性委員会委員長）

　私が建築士会で活動を始めたのは、約 10 年前に当時青年委員長であった児玉さんからのお誘いがきっかけでした。関東甲信越ブロック大会に参加し、「建築士の責任」と題して、自分が取り組んでいたシックハウス問題に関連する設計者責任について講演したことから始まりました。その後、児玉さんから青年委員長を引継ぎ、関東甲信越ブロック神奈川大会を開催するため実行委員長として、浅見さんから引継いだ雨森女性委員長とともに、神奈川県の各支部の代表として実行委員会に参加頂いた青年委員、女性委員が主導し、2 日間で述べ 800 名の参加者をもって実施することができました。この時に中心となったメンバーは、現在連合会や神奈川県建築士会理事、支部など様々なところで活躍しております。

　丁度この頃、関東甲信越ブロック青年協議会と関東甲信越ブロック女性協議会に神奈川県から参加していました。青年委員会と女性委員会の会議の進め方の違いを実感した数年間でした。また、全国女性建築士連絡協議会（全建女）に参加した時の驚きは今でも鮮明に覚えています。全国各地域の女性建築士が一堂に会し、自分たちの活動報告をするとともに、高齢者、子供、歴史的建造物、環境共生、集まって住む、景観まちづくり、素材などの基本テーマと時代にあったテーマを含めた 8 テーマで分科会を開催し、熱い議論が交わされていました。驚いた点は、参加者が同じテーマで 10 年以上継続しながら皆で自己研鑽しているのです。活動報告や分科会は、同じ活動を長期間継続している女性委員会ならではのノウハウの蓄積だと理解しました。その時から毎年全建女に参加し、皆さんから多くの刺激をもらっています。そんな女性委員会と出会い、神奈川県からは佐藤さんや大川さんが活動していた連合会女性委員会に私も関わるようになりました。

連合会女性委員会は 2011 年に 20 周年となりました。その時は、東日本大震災があった年で開催を再検討しましたが、2 月に京都でかつてないほど盛大に開催されました。
連合会女性委員会 21 年目から、女性委員長を 6 代目として引継ぎました。
新しいフェーズに向けて女性委員会を今後どうするか、という課題に対して、
「社会への発信」と「継続」の 2 点だと考えました。

具体的には、第一に、全国の女性建築士が一緒に取り組める「高齢者」の事例収集を行い、冊子に纏めました。全国各地域で行っている活動をお互い情報交換し、今後の活動に活かす目的も実施した理由です。第二に、東日本大震災を経験し、各地域では様々なボランティアや防災活動をしています。震災直後は多くの人が取り組んでいる活動も日ごとに参加人数が減っています。女性委員会は継続できる強みを持っていることから、震災直後から、現地の情報発信と、各地域の震災に関する取組を情報交換することを継続する、と宣言し実行しています。神奈川県の女性委員会が取り組んでいる福祉や高齢者、子供環境、防災など様々な内容は、全国に先駆けて活発に行われています。神奈川県女性委員会も 20 周年。新たしい力と継続を繰り返しながら発展することを期待しています。

福祉部会への流れ

桑山　直子

　現在の福祉部会は女性委員会の中から生まれました。
まだ介護保険制度もなかった頃、メンバーはちゃんと将来の高齢化社会を見据えていたのです。
「バリアフリー」という言葉は耳にしていましたが、高齢者や障害者が元気で自宅で過ごすためにはどの様な事に配慮をしなければならないかを考え、高齢になると身体の状態はどう変化するのか、それぞれの障害にはどのような特徴があるのか、専門外の医療的な問題や社会福祉の制度、相談を受ける時の心理学などはそれぞれの専門家を招いて勉強会も開きました。
そして、学んだ事を元に県や市町村での住宅相談も引き受けるようになりました。
相談の中で多くの方と出会い、たとえ年齢、性別、障害などが同じでも暮らし方は皆違うのだと言う事を学んだ様に思います。
一般的な知識を基礎としても、相談者と向き合う時は一度頭をゼロにして向き合う事が大切です。
女性委員会の中で切磋琢磨できる仲間と出会い学んで来た事が、今まで続けてきた仕事の根っこにあると思っています。

祝　女性委員会記念誌

東　二郎（防災委員会委員長）

一昨年春、女性委員会浦委員長より、災害時、避難する場所でのコミュニティづくり・空間づくりを考えるワークショップ「防災・減災を考えよう～ HUG から学ぶ」について共同開催を持ち掛けられたのが、女性委員会との交流の始まりでした。

そのワークショップは、同年７月２０日開港記念会館で開催し、３９名の参加を得られました。私にとっては、「HUG」は初めての経験でしたが、県民センターを皮切りに何度かの打合せを経て、感じたのは「手づくり感」でした。

様々な意見を引き出すための浦委員長の適切なグループ分けが功を奏し、充実した素晴らしい会となりました。

次は、昨年６月２８日にワークショップ「防災・減災を考えよう～ HUG から学ぶ」を、横須賀支部の会員各位の協力のもと横須賀市文化会館で開催致しました。

昨年は、一昨年以上の参加を得られ、小さい子どもさん同伴やら、親御さんらしき年配の方など、多世代にわたっての賑やかな会でした。特に遠く宮城県建築士会女性部会の３人からは、苦労の連続の「仙台市の復興の現状」の講演もあり、約６０名の参加は昨年を上回るものでした。「HUG」の意図する重要さは、ゲーム感覚での楽しさも兼ね、参加者の多くが真剣に組んでいる表情は印象的でした。

従来、私は防災については、ハード面にばかりとらわれていましたが、二度の共同開催を通じて、ソフト面すなわち「心のケア」の大切さを教えられた気がします。避難所の日常に視点を当てた点は女性委員会らしさを感じました。

また一昨年７月４日県民センターでは「防災塾・だるま」との打合せに初めて参加しましたが、皆様の防災に対する問題意識の高さを知り、刺激を受けました。一般の方が建築士に何を期待しているのか、避難場所で何が出来るか、建築士としてどうあるべきか色々と考えさせられました。

女性委員会との共同開催を通じて、多くの事を学ぶことが出来たことに感謝します。

２０年来、活発的に活動されてきたことに敬意を表し、今後も女性委員会ならではの視点でその時代に相応しい様々なテーマに向かって活動される事を期待して止みません。

県民センターで初めての打合せ

防災委員会の様子

平成 25 年度全国女性建築士連絡協議会

活動交流会よこすか大会での女性委員会
メンバーの集合写真

第２回コラボセミナー

たくさんの「はじめて」がある活動交流会

浦　絵美　（委員長）

スタッフとしての活動交流会参加デビューは、2012 年度開催の中支部大会でした。

開催支部の地域性を加味したテーマの選定、講師・後援依頼など、得るものの多い貴重な経験となりました。

女性委員長となった 2013 年は、私が所属する横須賀支部での開催でした。

女性建築士との集いが、各支部にて交代で担当する活動交流会へと発展したと聞いております。原点でもある「女性委員のパワー発揮のタイミング」と感じ、積極的な参加をメンバーにお願いし、散策ツアー誘導や受付など楽しみながら活動交流会に関わることが出来ました。と同時に、その地域の新たな発見もあり、活動交流会は、一般の方々に建築士のお仕事をご紹介する場だけではなく、私たちも神奈川県を知る地域と密接に関われる「はじめて」がいっぱいの重要なイベントでもあります。

これを機に、横須賀支部と女性委員会の交流は深まり、翌年の横須賀でのイベント開催実現へと広がっております。

このように、委員会内での活動だけでなく、活動交流会を通し、支部の方々やその地域とつながり、様々な方面に発展していくことはとても素敵な事です。

2014 年の湘南支部大会、2015 年…と、ますます多くの支部の皆様と「つながる・ひろがる」の輪が大きくなる事を、今からワクワクしております。

横須賀大会に続き、湘南大会でも、
街歩きをお手伝いしました！

コラボセミナー　　次世代の建築とランドスケープ

- 女性デザイナーのグローバルな視点から - 2013.12.21

番場　絵里香（副委員長）

国境を越えて活躍する女性デザイナー諸氏を講師※としてお招きし、次世代の街づくりへの提言を行うものでした。昨今のグローバリゼーションの中で日本独自の文化を継承し、新しいデザインとして発展させていく手法、また建築とランドスケープを総合的な空間として創造する可能性について、皆様と共に考える場を提供できたと感じております。

近年の国際化の中で、建築業界においても海外でデザインを学び、世界を舞台にした技術者の活躍が注目されています。青年委員会・女性委員会では、皆様に建築・インテリア・ランドスケープにおける国際的な業績をご紹介し、デザイナーと技術者の出会いの場を提供するとともに、今後ますますボーダレス化する社会の中で、建築業界の更なる発展に寄与すべくフォーラムを企画いたしました。

イベントは「デザイン」という要素が中心となったフォーラムであったため､最先端のアートスペースを会場としました。講師の方々の作品や業務のプレゼンテーションを受けて、会場の空気感（人と空間）全部が一体となったイベントでした。参加人数も 120 名と多く、また幅広い業種・年齢の交流の場ともなりました。講師の方々の海外でのご経験を、三人まとめて生の声として聞くことができる機会はなかなかございません。特にディスカッションは、各々の考え方を聞くことができ、大変貴重な体験となりました。

準備期間中は、海外在住の講師の方・委員会メンバーの関係者数名でスカイプ会議をしたことが印象に残りました。講師側・主催側という垣根を越えて、話し合いの場ができたことは、イベントの成功のきっかけだったと感じます。また、女性委員の女性らしい丁寧な気配りで進めることもできましたし、青年委員会の後援者願いも多くの支援をいただき、イベントの土台となりました。

多くの形にならないやりとりや各々のつながりが、大きなパワーとなっていた気がします。今後も、みえない部分の頑張りを楽しみながら企画・進行していく重要性を改めて感じたイベントでした。

※大槻香代子　氏（建築家・BAKOKO デザインディベロップメント主宰）
※澤山乃莉子　氏（インテリアデザイナー・NSDA LTD 主宰）
※関 晴子　　氏（ランドスケープ・アーキテクト STUDIO LASSO LTD 主宰）

懇親会参加メンバー

セミナー＠BankARTStudioNYK

全国女性建築士連絡協議会 A 分科会の発表を終えて

茶谷　亜矢　（副委員長）

1 月から本格始動したプロジェクトは、ここ数年女性委員会が防災委員会とコラボしてきた避難所運営ゲーム HUG への取り組みを全国女性建築士連絡協議会（全建女）A 分科会にて報告する目的で始まりました。鎌倉市での学校防災集会の勉強会参加、同市役所防災課への取材、防災委員主催セミナー参加と数え切れないほどの担当打合せを経て、発表用パワーポイントを作成し、発表時は、参加者による HUG 体験実施も計画し準備していました。単なる発表者による一方的で受け身にならざるを得ない発表でなく、テンポよく引き込んでいく空気を作りたくて、ニュースキャスターになぞらえた発表形式をとりました。そんな中、合同発表コメンテーターの浦委員長の突然の妊娠発覚 !＆緊急入院 !! による欠席というハプニングはあまりにもドラマチックな展開でした。そこで、浦さんの代役としてアシスタントに高橋さん横山さんを迎え、無事に発表を終えたのでした。
女性委員会らしさを出そうと、通常味気ない各班の表示スタンドと HUG カード入れを、女性委員会カラーで製作しました。参加者からも、どこで型図をダウンロードできるのかと質問されました。（オリジナルと聞き残念そうでした）
当日持込の PC と会場のプロジェクターが合わず前発表者の方の PC をお借りしその場でファイル移動、マウス設定するというハプニングもありバタバタでしたが、時間も予定通り終えることができて、もっと盛り込めたかなと思う余裕があったくらいです。
終わってからメンバーが､「私達の発表が一番楽しい発表だったと思う！」と言ってくれたのが､自画自讃ですが､とても嬉しく思いました。各地の女性委員会でも初めての体験だった方が多く、活動の必要性を痛感しました。
事前の綿密な浦委員長との毎日の打合せから、防災委員会の東委員長・長井副委員長、防災塾だるまの荏本先生（神奈川大学）、白田さん、中村さん、成松さん、当日ファシリテーターの方々ほか、多くの方のサポートを頂きました。この場を借りて感謝を述べさせてもらいます。ありがとうございました。
今回の活動を通じ、地域によりＨＵＧのバージョンも様々で、このような体験シミュレーションゲームを各地で行い防災意識をよりいっそう高めていく必要があると感じました。今後も続けていく予定ですのでよろしくお願いします。

ここ数年の活動その２　（委員会の様子、全建女Ａ分科会での発表、　活動交流会、散策ツアーお手伝い、全国大会　など）

いつでも笑顔で真剣に取り組んでいます

編集後記

番場絵里香　（編集長・副委員長）

女性委員会は活動から 27 年、委員会発足から 23 年が経ち、少しずつ委員会メンバーが代わり、歴史がつくられてきました。
20 周年記念誌としての発行を目指しておりましたが、震災などで延期をしたり、より良い記念誌とするための編集期間をとらせていただきがら、ようやく「女性委員会のあゆみ 2015」というタイトルで発行に至りました。

この「女性委員会のあゆみ 2015」の主旨は、毎年の報告資料があるもののどんな人がどんな事を考えながら委員会に接してきたかをまとめて残す必要があると考えたこと、さらに、今後どのような事柄を視野に入れて活動していくのかを改めて考える機会をつくることで、より活動の幅を広げていくことを目的としていました。

委員会の参加のかたちは人様々です。メンバー以外の方でも、イベントなどを通して横のつながりを積極的に強め、女性らしいユニークな視点をフル活用しながら、今後も建築業会へ関わっていくことを楽しんでいく仲間です。

何かのきっかけで（つどう）、
活動を通して（つくる）、
出会った人々が（つながる）、
様々な活動をしていく（ひろがる）。

を大切に、今後も女性委員会を続けていきます。
最後になりますが、歴代委員長をはじめ、他委員会の方々にもお言葉を頂戴しました。改めて記念誌「女性委員会のあゆみ 2015」に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。